

## 保育保健の要点

保育園は親に代わって1日のなかの主な時間を保育する施設です。ここでは産休明け生後57日からの乳幼児が対象です。近頃は在園時間も長くなり、8時間以上は普通です。夜間の睡眠時間を除けば、家庭での親子の生活時間より長いのですから、保育園の保育が子どもの成育に及ぼす影響は大きいことは明らかです。

本書は、保育園で過ごす子どもの保健の領域を整理したものです。それは日々保育を担当している保育者にとって、責任の大きい部分です。

殊に次の三点は、在園中の子どもから一時も目を離すことのできないことであると同時に、保育を依頼された保護者に対する責任であります。日々研鑽して安全と事故予防（防止）に努めましょう。

### ① 事故の予防

発育過程にある未熟な乳幼児の行動には、常に危険が伴います。軽微な事故は、むしろ発育段階を昇るための一部とも考えられるほど日常的なものです。

このような事故の予防や対策に当たっては、細心の注意が必要と同時に、職員と親とのふだんからの人間関係が大切です。

### ② 異常に気付く

保育保健のなかでも、在園中の病気や異常の早期発見は保育者の責任です。それには在園児の日常の様子をよく知ることで、「オヤ?」「何かおかしい」と気付くことです。

### ③ 感染症の予防

母親の子宮内は無菌の環境でした。産声で生まれた新生児は、その瞬間からたくさんの病原体との遭遇です。幼若児ほど免疫力が弱いので感染、そして発病となります。

乳幼児の集団である保育園は感染症の予防、早期発見と隔離が重要です。ふだんから地域における感染症情報の入手、予防接種の確認、保育園内の衛生管理が必要です。